

～ 富士見市指定文化財の紹介 ～

コロボックルの碑

指 定	市
種 別	有形文化財
種 類	歴史資料
員 数	1基
指定日	昭和50年（1975）11月1日
所在地	富士見市山室2-26



移転前のコロボックルの碑

【 概 説 】

本来は貝塚稲荷旧跡碑（大正元年建立）ですが、碑の建立までのてん末を記した碑文の内容からコロボックルの碑と呼ばれています。明治40年（1907）にこの地を訪れた東京帝国大学の学士が、貝塚山から採集された土器をコロボックルの残したものと説明しました。当時の学説では、縄文土器や石器はアイヌの伝説上の先住民であるコロボックルによるものであるといわれ、古代史研究の過程を示すものとして学史上貴重な石碑です。

また、稲荷社跡地の開墾により発見された古墳時代の鉄刀を文化財として認識し、皇室博物館（現東京国立博物館）に寄贈した発見者の行為には、文化財保護の精神の原点が認められ、これを記した石碑としても記念すべきものです。